（別紙１）

令和元年度 第１回みんなで支える森林づくり上小地域会議

開催日時　令和元年６月 26 日（水）13:00～16:50
開催場所　東御市 海野保育園･信州ウッドパワー、上田合同庁舎 202 号会議室
出席委員　藤田健司（座長）、石井公彦（座長代理）、高橋一秋、島田直政、清水理絵、米津さち子、保母裕美、水野美恵
事 務 局　鈴木地域振興局長、小山林務課長、中島林務係長、千村普及林産係長、小林治山林道係長ほか

１ 現地視察

（１）「子どもの居場所」木質空間整備事業実施地（東御市本海野 社会福祉法人 海野保育園）
（関園長、千村普及林産係長）
説明要旨
・ 平成 30 年夏は記録的猛暑で、園児が園庭に出て遊べなかったところ、森林税事業に採択されたので、園舎の庇を増設することができた。
・ 県産のスギ及びヒノキ 3.4 立方メートルを使用している。
（高橋委員）
スギとヒノキをどう使い分けているのか。材は県内のどこ産か。
（千村普及林産係長）
スギは軽いので上部、ヒノキはシロアリ等の対策もあり下部に使用している。一次加工が北信地域の製材工場なので、北信産と推定される。

（２）木質バイオマス発電施設建設地（東御市羽毛山 信州ウッドパワー株式会社）
（陰山代表取締役、千村普及林産係長）
説明要旨
・ 伐採後に製材等に利用できない低質材等を活用する。又トラックで長距離輸送すると排気ガス等環境によくないので地域材を活用、発電して地域に安定的に電気を供給する。
・ 令和２年春に発電所を稼働予定で、今秋から木材の受入を開始、森林づくり県民税活用事業の松くい虫枯損木利活用事業による松くい虫被害材も受け入れる予定。
・ 発電プラントやチップ工場の建物には木材を利用できないが、２階に見学スペースを設けた管理事務所は SGEC 認証材等を使って建設中である。
（高橋委員）
・ 燃やすと大気中にススが出ると思うが。
（陰山代表取締役）
・ バグフィルターというフィルターを付けてススは環境基準を大幅に下回る水準とする。灰も地盤改良材として有効活用したい。
（高橋委員）
・ 木材の搬入は多かったり少なかったりすると思うが、どうコントロールするのか。
（陰山代表取締役）
・ 広い置場を確保しているので、材をストックして調整していきたい。

（別紙１）

（海野保育園の木材利用状況を視察）

（木質バイオマス発電施設の建設状況を視察）

２ 会　　議

（１）あいさつ

（鈴木地域振興局長）

委員への就任、出席及び県政への協力に御礼申し上げる。

当会議は「長野県森林づくり県民税」を活用して実施している事業に、地域の皆様の声を反映させるために設置している。

このあと、上小地域における平成 30 年度事業の実施状況と令和元年度事業の内容等を説明させていただくので、ご意見をいただき、今後の取組に反映させていきたい。

（２）座長等の選任

委員の互選により藤田委員を座長、座長の指名により石井委員を座長代理に選任

（鈴木局長あいさつ）

（藤田座長議長就任）

（３）会議事項

ア 平成 30 年度の森林づくり県民税活用事業の実施状況

イ 令和元年度の森林づくり県民税活用事業の内容及び目標

（中島林務係長、千村普及林産係長）

・資料１－１により上小地域の平成 30 年度の実施状況の概略を説明

・資料１－２により上小地域の平成 30 年度の里山整備方針作成事業、里山整備利用地域認定、「子どもの居場所」木質空間整備事業、森林づくり推進支援金などの詳細を説明

・資料１－３により長野県全体の平成 30 年度の防災・減災及び県民協働の里山整備の状況などを説明

・資料２により上小地域及び長野県全体の令和元年度の内容や目標・計画、学校林等利活用促進事業（活動支援事業）などを説明

（高橋委員）
上小地域について、全県の予算額に対し、平成 30 年度は３％、令和元年度は６％で少ないと思うが、森林面積の割合と比べてどうか。
（千村普及林産係長）
上小地域の民有林面積は全県に対し６％で令和元年度の予算割合と同程度。ただし、上小地域は木材生産量は全県の中でも多い方で、松くい虫被害も多いという特徴がある。
上小地域は過去に一生懸命森林を整備してきてストックが終わってしまって、また前期の森林税事業による里山整備は 29 年度までに完了し、30 年度は繰越事業がなかったことから、今期の森林税事業対象地を特定する里山整備方針の作成に注力。全市町村で里山整備方針ができたので、防災減災のための里山整備などで事業量が増える見込である。
（中島林務係長）
上小地域では総じて多様な県民ニーズに応えるための利活用の各種事業の取組が少ないが、その中で県の資料によると学校林、まちまかの緑地事業で平成 30 年度は周知が不十分、遅れたというような記載がされている。
（千村普及林産係長）
松くい虫被害木利活用事業については、平成 30 年度は実施しなかったが、現地視察したウッドパワーが今秋から集材を開始するので、今年度以降重点的に取り組むこととしている。
（小山林務課長）
平成 30 年度は全県に占める割合で 16%と「子どもの居場所」木質空間整備事業に重点投資を行った。この地域会議において、こんなことに重点的に使ったら、こんなことに使えたらというようなご意見をいただきたい。
（米津委員）
上田市街地は緑が少ない。枯葉が面倒という話もあるが、市民の普及啓発を行い、街路樹など緑化整備を進めてほしい。
（水野委員）
「ヤギの博士の大発明」という絵本がある。内容はたった１本の爪楊枝を取るために木材を一生懸命加工するというもの。これに対しウッドパワープロジェクトはＩＴを活用し身近な自然を効率良く使う計画で感心した。
海野保育園は木の上を渡る風が気持ちよい。安心しきって子どもたちがお昼寝している。木造・木質化をするとこういうところがよいという意見などを聞いてＰＲをするとよいと思う。
（千村普及林産係長）
ウッドパワープロジェクトでは、スマートフォンで木材をどこからどの道を通って運んできたか把握するとのことである。現状では木材の５割は山に置いてきている。木質バイオマス発電は山に置いてきた木材を有効活用できる。
（保母委員）
ウッドパワープロジェクトでは事務室２階に見学プレゼンルームがあるなど、子どもたちが見学できてよいと思う。
（石井委員）
現実的には山の仕事は厳しい状況である。山主さんに少しでも収入が入るようになれば、若い世代の人たちも就職など山に入るようになると思う。
木が大きくなりすぎて、一般住民にできる作業は藪の刈払いや獣害防護柵の維持作業などに限られてきており、支援が受けづらい。
（千村普及林産係長）
住民作業については、県民協働による里山の整備・利用事業で実施できる場合もあるのでＰＲに努めたい。

（別紙１）

（左から島田委員、石井座長代理、藤田座長、高橋委員）

（左から水野・保母・米津・清水委員）

（島田委員）

お箸がプラスチックだったのがステンレスに代わろうとしている。木が使われていないのが問題である。

地域材が使われて山元に収入が入るかどうかは、建築設計士が鍵を握っている。大学などで木造を勉強していないため、建築設計士に木造を提案し、木造の建物の普及を図っていきたい。

（清水委員）

私は山を遊びに使ったらということで、アウトドアーの障害物競争のようなことや、実際に木の伐採を見るなど山を感じる取組をしている。山を使うことがもっと身近になるようＰＲしていきたい。

ウ　その他

（中島林務係長）

資料３を説明

説明要旨

・大北森林組合等による補助金不適正受給事案に対する再発防止のため、上田地域振興局林務課では、令和元年度林務部コンプライアンス推進行動計画に基づき、予算執行状況の進捗管理、再発防止策の定着状況の検証などを行う。

（質問・意見などなし）